

ゆずなさんが
私たちに残してくれた
大切なメッセージが

多くの人の心に
届きますように

映画上映会



2026.3.26 木
18:00~19:30



申し込み方法

下記QRコードもしくは
URLよりお申し込みください



<https://forms.office.com/r/icx69t5N6q>

お問い合わせ：
がん対策戦略室
03-3202-7181 (代表)

会場：NCGM 集团指導室
(裏面参照)

定員：先着 50 名

参加費：無料



15歳～30歳代までの思春期・若年成人を AYA ("あや", Adolescent and Young Adult) 世代と呼び、国内では年間約 20,000 人以上がこの世代でがんと診断されています。この時期は、就学、就労、妊娠・出産、育児、介護などさまざまな人生のイベントが起こります。

この映画の主人公は、看護師として働いていた時に、27歳で舌がん stageIV と診断されました。「AYA 世代として、困っている他の人の何かの役に立てるなら」と自分の現状をドキュメンタリー映像として記録してもらうことを望まれました。この映画の中では、AYA 世代特有の苦悩を抱えながらも懸命に生きてこられた主人公の姿があります。



医療現場の最前線で働く彼女が、 スクリーンを通して私たちに伝える いくつもの葛藤と幸福のかたち



「寄り添う」と言葉でいうのはたやすい。しかし、主人公は、安易な共感の余地を与えず、「若いがん患者」というラベルを張られることを徹底的に拒む。そして、医療者らしく、鋭く問いかける。あなたは問題が見えているか、あなたには何ができるのか、と。

清水千佳子 国立国際医療研究センター病院 がん総合診療センター 副センター長
一般社団法人 AYA がんの医療と支援のあり方研究会 理事長

当たり前が当たり前ではないと知り、その当たり前を取り戻す事ができた今の私が決して忘れてはいけない事を思い出させてくれた映画でした。

私は人は誰も一人では生きていけないと思っています。

それはどんなハンデがあろうとなかろうと。

必要とする事、頼りたいと思う瞬間、繋がりたいと感じる瞬間、支えたいと思う瞬間、それぞれ形は違えど必ずある。

私だからできる誰かと繋がり、支える行動をしたい。

それがきつとありのままの自分を愛する事に繋がると信じているから。

安本彩花 私立恵比寿中学

ドキュメンタリーでありつつ、生と死を描いて虚空の極までのほりつめている。

それでいて地上に生き続ける人々のありようが素晴らしい。

監督だけでなく、撮影、編集、録音、集合体の力。

ただただ、映っているものが、とてつもなく愛おしい。

瀬々敬久 映画監督

@care_tsumuide
fb.com/care.tsumuide
care-tsumuide.com

ありのままを記録してもらえれば——そう語る看護師の鈴木ゆずなさん。27歳でステージ4の舌がんの診断を受けた彼女は、仕事を休み、治療を続けています。やりたいことをリストに書き出して、家族や友人を招いて念願の結婚披露パーティーをひらいたり、富士山に登ったり。一方でゆずなさんは日々の気づきを言葉にします。「ネガティブな自分を抑圧せず、素直に受け入れた」「今、自分は辛いんだな」と否定も肯定もせずただ受け入れる」。本作は、ゆずなさんが夫の翔太さんや友人たち、あらたに出会ったNPO法人「地域で共に生きるナノ」の仲間たちと時を重ね、日々の暮らしを紡いでいく姿を描くドキュメンタリー映画です。

監督は「ただいまそれぞれの居場所」など、現代社会のケアの営みと制度のありようを見つめる大宮浩一。そして、この映画を企画したのは、医療の最前線で働いていたゆずなさん自身です。ゆずなさんは「AYA世代」。AYAとは「Adolescent（思春期）と Young Adult（若年成人）」の頭文字で、おむね15歳から39歳のがん患者のこと。就学や就職、出産や育児などに直面し、大きな困難を抱えても、医療費制度と介護保険の谷間で、支えとなる助成制度がほとんどありません。根治が難しい病状を熟知しているゆずなさんが私たちに伝えようとしたいくつもの葛藤とたしかかな幸福のかたちとは？



会場：国立国際医療センター（NCGM）集団指導室

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1

都営地下鉄 大江戸線 若松河田駅（河田口）から徒歩5分

東京メトロ 東西線 早稲田駅（2番出口）から徒歩15分

都営バス「国立国際医療研究センター前」徒歩0分



2026.3.26 木
18:00~19:30